



拍手を受けながら出発する「おまかせくん」

小さくても頼れる移動スーパー 買い物は「おまかせくん」におまかせ

(株)フジの移動スーパー「おまかせくん」の出発式が4月3日、フジ内子店で行われました。「おまかせくん」は、食料品や日用雑貨などを家の前で買えるサービス。週2回、内子・大瀬・五十崎・小田地域を巡回し、買い物を支援します。同代表取締役会長の尾崎英雄さんは「生活がなければ、村の風景は残せない。地域の暮らしを守ることに貢献したい」と力を込めました。



自分で作った木のアクセサリを手にとりこり

つくる喜びと選ぶ楽しみがいっぱい 職人が集う「五十崎クラフトフェア」

「五十崎クラフトフェア」(五十崎商工連盟匠会)が4月6・7の両日、風博物館で開かれました。地域の素材や伝統の技を駆使した商品を扱う店など、県内外から計16社が参加。こだわりの逸品を求める人でにぎわいました。西予市から来たという家族は、木のアクセサリ作りに挑戦。「前回楽しかったので、また来た。いろいろな物づくりに触れられて楽しい」と満足そうでした。



子どもたちも見守る中、こいのぼりが泳ぎ始めた

中山川を泳ぐ、最後の雄姿—— 下立山の有志がこいのぼりを設置

下立山地区の有志20人が4月7日、新緑が美しい中山川の切岩堰にこいのぼり30匹を泳がせました。平成14年に始まり、地域の風物詩となっていたが、設備の老朽化やこいのぼりが少なくなったことを理由に、今年が最後となります。発起人の一人・小川浩司さんは「長い間、人々の目を楽しませてきた。私も元気をもらっていたので寂しくなる」と感慨深げに話しました。



新時代への願いを込めた「令和」の100畳風

いかざき大風合戦の準備着々 100畳風に乗せる大きな願い

「いかざき大風合戦」で揚げる100畳風の仕上げ作業が4月12日、共生館ホールで行われました。内子100畳大風愛好会(上田光明代表)らが、4日間かけて制作。新元号の「令和」の風文字を見事に描き上げました。上田代表は「令和元年の最初の100畳大風揚げ。新たな時代も平和であり続けてほしいという願いを込めた。本番は事故がないよう上手に揚げたい」と力を込めました。

最後の思い出はみんなとの演奏会 石畳小で「スプリングコンサート」

「スプリングコンサート」が3月25日、石畳小学校で行われ、卒業生と在校生6人が30年度の最後を締めくくりました。地域住民が見守る中、児童や教職員らが「友だち讃歌」など19曲を披露。以前、同小学校に山村留学していた小林功希さんと海人くんも参加し、ドラム演奏でコンサートを盛り上げました。繁桝篤校長は「子どもたちの頑張りで、いい演奏会になった」と笑顔で話しました。



児童・教職員全員でオカリナの演奏を披露

地域自慢の桜をみんなで愛でる 町内各地の名所などで「さくらまつり」

満開の桜が景色を彩った3月下旬から4月上旬、内子町内の各地で春を楽しむイベントが催されました。

小田地域・上川地区では3月31日、世善桜の開花をみんなで祝おうと「世善桜まつり」を開催し、バザーや写真展、桜のライトアップなどが行われました。また立石地区では3月30・31の両日、「立石まるごと春まつり」が行われ、釜揚げうどんの食べ放題や、山菜やシイタケなど、地元の味を提供しました。内子地域では4月6日、桜まつり実行委員会が「桜まつり2019」を知清河原で開催しました。手ぶらで花見ができると人気で、約450人が参加。町内の飲食店主などが作る料理や、約80名のマグロの解体ショーなどを楽しみました。

その他、石畳・野村・池田地区などでも、地域の桜を愛でる催しが行われ、多くの人でにぎわいました。



1_美しい古木を見に、多くの人が訪れた(石畳地区) 2_住民がおそろいの帽子でおもてなし(上川地区)
3_最高の花見日和で、楽しそうな雰囲気会場(知清河原) 4_池のほとりで花と食事を楽しむ(立石地区)